

教科等研究会（小学校図画工作部会）

平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

どの子ども楽しく
「見つめ・感じ・つくりだす」図画工作科の授業づくり

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
5/25	24人	御船中学校	8/16	御船中学校	実技研修	11/9	嘉島西小学校	宮本亜弓教諭	1/26	御船中学校	野口良美教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマの設定

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ、「一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、昨年度設定したテーマをさらに継続して研究を進めていくことにした。図画工作科の目標は、「感性を働かせながら、つくりだす喜び」を味わわせることであり、「創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことにある。しかし、図画工作科の授業において、「不器用だ」「不得意だ」と苦手意識を持って過ごす子どももいる。そのような子どもたちも全員が参加でき、理解し、習得し、活動していくことができるようにすることが求められる。そのため、授業のUD化の視点を持ち、「焦点化」「視覚化」「共有化」を図り「どの子ども楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』図画工作科の授業づくり」を研究していくこととした。『分かる・できる』『楽しい』授業づくりのためには、興味を持つ教材・教材との出会わせ方や全員ができるための手立てなどを工夫していこうと共通の目標を持ち研究を進めた。

② 実技研修

実技研修会では、宮崎不二夫先生をお招きし、一版多色木版を行った。一版多色木版は、黒い画用紙に刷るので線彫りで表現できるため、木版画の入門として中学年から取り組むことができ、彫刻刀の扱いに慣れさせることができる題材である。注意点として、黒い紙に刷るので、絵の具に白を混ぜて発色をよくしたり絵の具の濃さをマヨネーズ程度にしたりするなどの工夫が必要である。また、絵の具を何度も刷り重ねていくので、版と紙がずれないように留める工夫が必要である。

会員は、自ら製作することで少しずつ作品ができあがってくる楽しさや絵の具の濃さの調節の難しさを感じていた。指導の際に気をつける点や指導の際にどんな声かけをしたら効果的か体験から考えることができたとの声が聞かれた。



③ 研究授業

授業のUD化を視点に教材の研究を行った。授業者の学級は、特別支援学級の児童の交流学級でもあり全員が参加でき「どの子ども楽しく」学習ができることを中心に授業づくりを行った。

まず、目的を持って製作することや材料を集める段階から家庭や特別支援学級との協力をお願いして授業にあたった。授業研究会では、スモールステップをふんだ説明や作品提示の方法のよさ、みんなが夢中になってできる教材であったことが多く出された。また子どもたちがイメージをひろげどんどん製作していくための支援のあり方が協議された。低学年の児童にイメージをつかませるために「ゴロゴロ」や「トントン」などの擬音を使ってみる、同じ道具を使ったりして共通の作業のしかたを理解するなどの方法も提案された。

また、全員が参加できる意見の取り上げ方については、必ず考える時間を取り、ペアやセルフトークをした後、全体で発表をすることが必要だと確認をした。

(2) 成果と課題

- 実技研修では、実際に児童と同じ材料を使って、教材を研究することができた。また、会員どうして情報を交換したり指導方法を相談したりすることができた。
- 提案授業では、低学年における造形遊びの学習の中で児童が材料に働きかけ、試行錯誤しながら製作をしていく過程の中で教師がすべきことを協議することができた
- 教師の支援として、スモールステップで手順を明確に示す、友達の発想を参考にさせることが有効であることが分かった。
- 少人数のグループで製作をしたり、友達の作品を見合ったりすることで交流が生まれ自然に鑑賞にもつながることが分かった。低学年における鑑賞のあり方を考える機会となった。
- △ 造形遊びの指導をしていく中で、評価をどのような場面で、どのような観点で行うかを明確にする必要がある。
- △ 低学年の鑑賞では、製作と鑑賞が一体となっている。どんな点ができていれば評価できるのか来年度への課題である。

4 実践事例

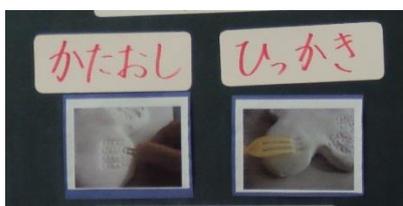
(1) 授業の概要

第1学年「のぼしてぺったん」授業者 宮本 亜弓 教諭（嘉島西小学校）

本題材は、のぼした紙粘土に身のまわりのもので型押しや型抜き、ひっかきなどをして形の変化を楽しんだり、色をつけたりして飾りを作る活動である。いろいろな写し方を楽しみながら、できた形や色を楽しんだり、自分らしい表現のしかたを工夫したりする題材である。

導入では、たくさんのお客様に向けて、自分たちも壁掛けを作って盛り上げようという目的を持たせて学習に入った。本題材の学習計画を示し、本時は伸ばした粘土に模様をつける段階であることを確認した。作業に入る前にスモールステップに分けた作業の手順を提示し、型押しをする様子と引っかいて模様をつける様子を写真で示した。

製作の場面では、友達の様子を見たり道具を貸し借りしたりできるように3人ずつグループに分か



れて作業をさせた。また、製作の途中で、半数ずつに分かれて友達の作品を見に行く時間をとった。半数ずつに分かれることで、どのように型を押しているか交流ができるように工夫されていた。まとめでは、友達の作品のよいところを発表し全体で交流をした。

(2) 学習指導案

小学校授業

小学校 1 年

分野：表現

題材名 「のばして ペったん」
授業者 宮本 亜弓 (嘉島町立嘉島西小学校)
場所 1年1組 教室

題材について

本題材は、「紙粘土に型押しすることから思いついた飾りを工夫する」ことを通して、形や色、方法や材料を工夫する力を培うことを目標としている。今回は、学校に来るお客さんたちに飾りを楽しんでもらうことをテーマとして、児童がいろいろな写し方を楽しみながら、できた形や色を楽しんだり、自分らしい表現の仕方を工夫したりする。自分たちの作った作品を壁に飾ることで、見た人に楽しい気持ちになってもらうことをイメージしながら、型押しや引っかきなどで形の変化を楽しむことを大切にしていく。

UD の視点

単元全体の見通しを持たせ、全ての児童が安心して活動に入れるようにする。作業の手順を模範で示したり、活動をスモールステップ化したりし、視覚的にも分かりやすく提示をする。児童の自由な発想を大事にし、いろいろな発想や表現を認めていく。自信を持って自分の作品を発表でき、多様な発想を認め合える雰囲気づくりに努める。

指導計画 (4 時間扱い)

テーマを知り、今後の見通しを持つ。
手で紙粘土をのばし、好きな形を作る。
(1/4 時間)

のばした紙粘土に型押しや引っかき
などを工夫して表す。
(本時 2/4 時間)

できた模様を見ながら、絵の具やク
レヨンなどで色をつける。
(3/4 時間)

作品を鑑賞する。(4/4 時間)

題材の目標

- 関 型を押ししたり、引っかいたりする表現方法に興味・関心を持ち、取り組むことができる。
- 発 どんな模様ができるか想像しながら、繰り返し試し、自分なりのイメージを広げることができる。
- 技 型の押し方や押す場所などを工夫したり、型押しした場所に色をつけたりして、作品をつくること
ができる。
- 鑑 友達の表し方のよさや違いを感じ、楽しく見ることができる。

本時の目標

目指す子どもの姿

紙粘土に型押し、引っかき等をし、自分の表したい模様を楽しんで作ることができる。

児童生徒の実態

活動は楽しむことができる児童が多いが、作業が雑になってしまう児童や、なかなか発想が広がりにくい児童がいる。手先の不器用な児童がいる。

本時のめあて

かみねんどにかたおしをして、たのしいもようをつくろう。

学習活動

発問や指示

UDの手立て

①
2分

テーマについて確認をする。

学校に来たお客さんにどんな気持ちになってほしいですか。

【視覚化】

作業手順を視覚的に示す。実際に教師がやってみせる。時間の見通しを持たせる。

②
5分

本時の作業内容を確認する。

今から紙粘土に模様をつけていきます。

【視覚化】

友達の作品を見に行く時間を設けることで、イメージを持たせやすくする。

③
30分

作品づくりに取り組む。

〈主発問〉どんな押し方をすると楽しいもようができるかな。
〈評価〉型の押し方を工夫し、模様を作ることができる。

【焦点化】

友達の作品を見に行くことで、押し方等の工夫によって模様の違いに気づかせる。

④
8分

本時の学習をふりかえっての感想を交流する。

友達の作品のいいところを見つけましょう。

【共有化】

それぞれの作品の違いに気づくとともに、友達の表し方のよさを感じる。

ふたで、まるいかたちをいっぱいおしてみよう。



このもようはどうやったの？



フォークのここのおしたよ。